



1. NetPrezenzとは

あのAnarchieの作者Peter N Lewisの作ったMacintosh用のWeb&FTP&Gopherのサーバーソフトです。もともと、FTPdと言われていました。バージョンアップの際にNetPrezenzとなり、最後のバージョンは4.1です。大橋 猛さん、杉垣 信義さんらがローカライズしてくれています。海外では、かなり評価されたシェアウェアで、最近のMac OSに簡易Webサーバー機能が付いているため別途Webサーバーを使うには必要ないですが、MacOS 7.Xを使っている人にはおすすりめです。

Peter N Lewisは、いま、Anarchieの後継ソフトInterarchyに力を注いでいるようで、NetPrezenz自体は手放され、現在Netprezenz.comに引き継がれました。しかし、残念ながら開発は行われていないようです。その際値上げがあり、現在\$69.95で売られています¹。

入手先は、

NetPrezenz

<http://www.netprezenz.com/>

日本語版

<http://www.vector.co.jp/soft/mac/net/se064909.html>

<http://www.toshu-ltd.co.jp/gaki/mac/index.html> (ここに4.1J2があります。)

このレポートでは、NetPrezenzのWebサーバーとしての利用を中心にしていきます。Webがちゃんと動けばFTPもちゃんと動きます(きっと)。

必要なマシンスペック

マシンスペックは、System7(漢字Talk7.1)以降であれば使用できます。推奨スペックは、System7.5以降です。もちろん、Mac68Kで動きます。また、MacOS9でも動きます。以下の構成で十分です。

1)System7 + MacTCP or OpenTransport 1.1.1

2)System7.5+OpenTransport 1.1.2

耐久性ですが、マニュアルによると100時間のテストを通して平均して、一時間当たり1000以上のFTP接続、1200以上のHTTP接続、370Mをはるかに越えるのデータ転送をこなしたそうです。利用したのは、MacLC630+System7.5.5だそうです。それが、通常のサーバー機に比べてすごいのかどうかは分かりませんが個人のサーバーとしては十分な能力が有ると思います。

¹ もともと\$10でしたが、途中で\$40ぐらいになり現在の価格にいたっています。でもまだ安いです。

2. 前準備

前準備として、MacOSの方でファイル共有の設定です。この設定が、NetPrezenzに受け継がれます。OSのバージョンによって設定の仕方が異なりますが、設定すべき内容は同じです。

- 1)ファイル共有
- 2)ゲストのアクセス許可
- 3)Web公開するフォルダーの設定

2.1. ファイル共有

コントロールパネルのファイル共有(OS7.xでしたら共有設定)を開いてください

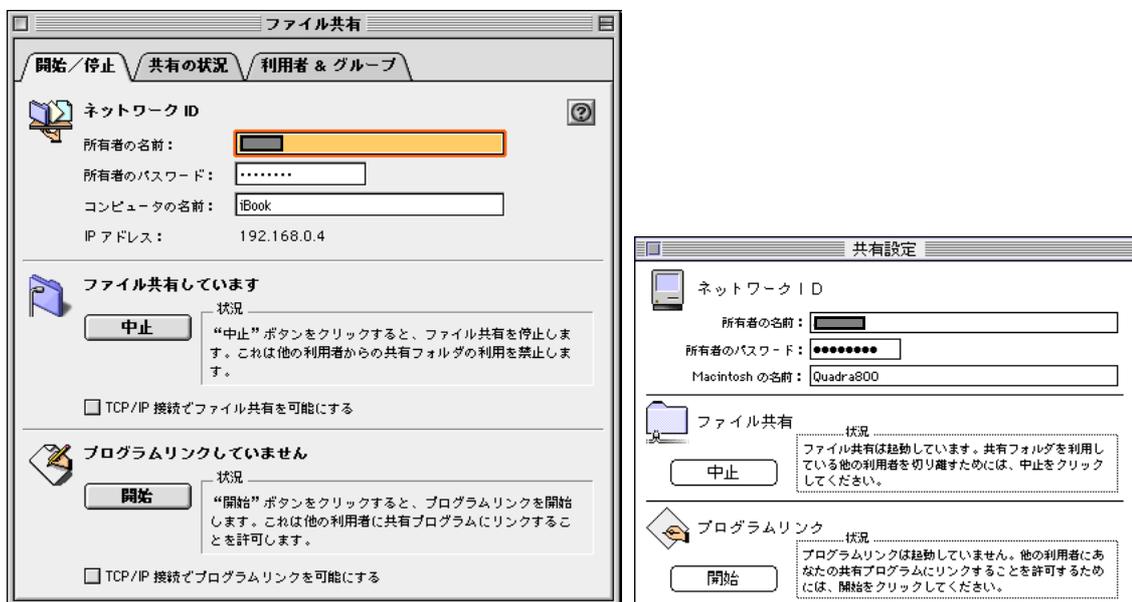


図2-1設定共有設定の開始(左OS9.0右OS7.5)

「ファイル共有」が開始されていなかったら開始してください。開始しなければ、FTPサーバーもWebサーバーも使用できません。開始するとファイルの数によっては数十分かかりますのであせらずに待ってください。「TCP/IP接続でのファイル共有」や「プログラムリンク」の必要はありません。

2.2. ゲストのアクセス許可

次に「利用者&グループ」を開いてください(OS7.xですとコントロールパネルの中にあります)。



図2-2 利用者とグループの設定(左OS9.0右OS7.5)

「利用者&グループ」の中のゲストをクリックして、ゲストのファイル共有を可能にしてください。そうしないとWebの公開は出来ません。また、FTPでユーザーアクセスを行いたければ「利用者&グループ」にそのユーザーを登録する必要があります。



図2-3 ゲストの共有設定(左OS9.0右OS7.5)

2.3. Web公開するフォルダーの設定

Web公開するフォルダーですが、まずは、NetPrezenzのフォルダーの中にある「Showcase」を選んで下さい。ここがうまくブラウザで表示できれば、設定はちゃんと行えています。

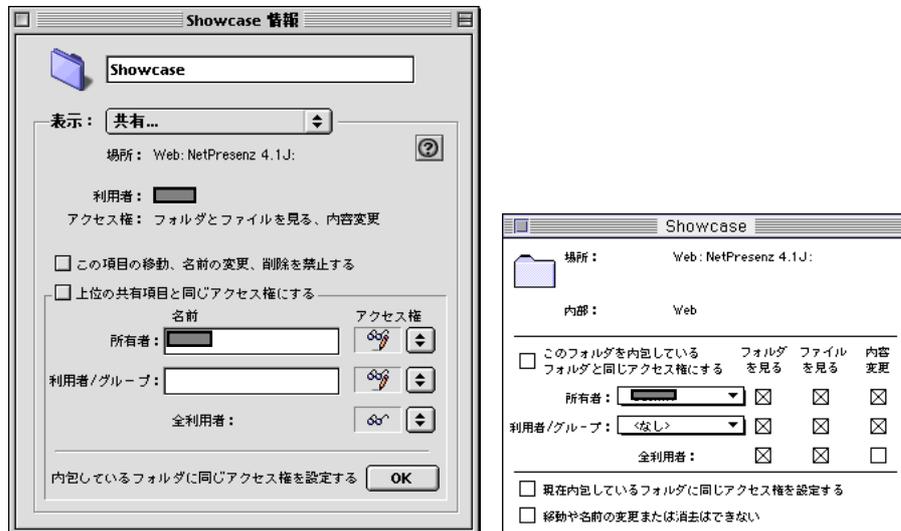


図2-4 共有するフォルダー設定(左OS9.0右OS7.5)

設定するところは、「全利用者の設定」をフォルダーとファイルを見るだけの設定にします。間違っても、「全利用者」の「内容変更」は許可しないでください。危険です。

その他にMacOS 8.5より古いOSには、「InternetConfig」(このファイル属性の設定がNetPrezenzでも有効)が必要です。

InternetConfig²

<http://www.vector.co.jp/soft/mac/net/se031715.html>

<http://www.toshu-ltd.co.jp/gaki/mac/index.html>

3. NetPrezenzの設定

今度は、以下の手順でNetPrezenz自体の設定を行ないます。

- 1) NetPrezenz Setup(日本語版では、NetPrezenz設定)でFTPを設定します。
- 2) つぎにFTPのユーザーの設定をします。
- 3) WWWを使うためにWWWの設定をします。
- 4) Gopherは使わないので設定しません。
- 5) セキュリティーの設定です。

² これも、Peter N Lewisさんの作品です。

NetPrezenzの設定は、サーバーとは別プログラムの「NetPrezenz Setup」(日本語版ですと、NetPrezenz 設定)で行ないます。NetPrezenz Setupを立ち上げると上のようなメニューが出ますので、それぞれ設定したいところをクリックして設定します。



図3-1 NetPrezenz設定

3.1. FTP設定

初めの設定では誰もファイルへのアクセスが出来ないようになっています。必要の応じてファイルのアクセス設定します。WWWの機能もこの設定を参照していますので、ゲストのところを読み込み参照可能してください。

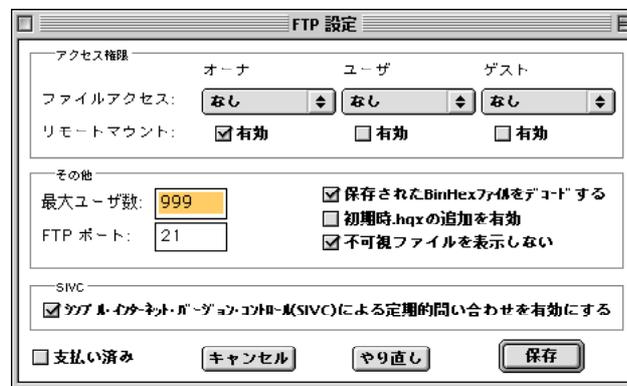


図3-2 FTPの設定

「I Paid」(日本語版では、支払い済)³ をチェックすると、「サンキュー」と言ってくれます。ライセンスコードの入力が必要ありませんが、継続して使用する場合は必ずシェアウェア代金を払ってあげてください。

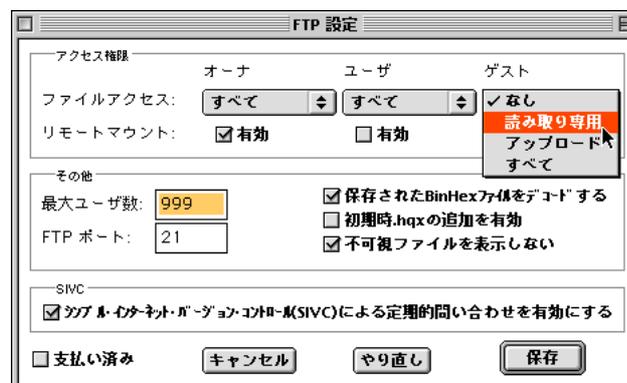


図3-3 FTPのアクセス権の設定

Webの公開の為に、「ゲスト」の「読み取り専用」の設定が必要です。FTPをユーザーで利用したい場合は、ユーザーのアクセス権を設定してください。

³ 現在、Netpresenz.comから購入したものはどうなっているかわかりません。

3.2. FTPユーザー設定

アクセスするユーザーに応じて、ログイン時にアクセスするディレクトリーを設定します。

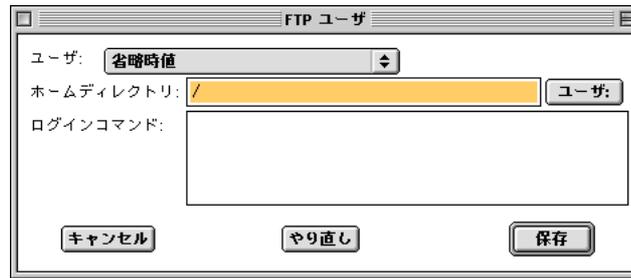


図3-4 ユーザーの設定

外部から、Webのサイトのアップロード等をするのでしたらそのユーザーのディレクトリを指定しておくとい良いでしょう。

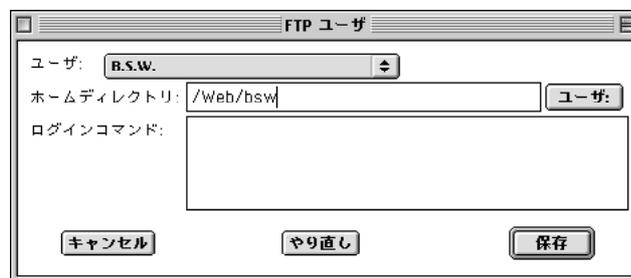


図3-5 ユーザー毎の設定

3.3. WWW設定

WWWとして公開する一番上のフォルダー名を設定します。もちろん、左上の「WWW enable」（日本語版では、WWWが有効）はチェックします。ディレクトリーの指定は、UNIXでおなじみの「/」です。

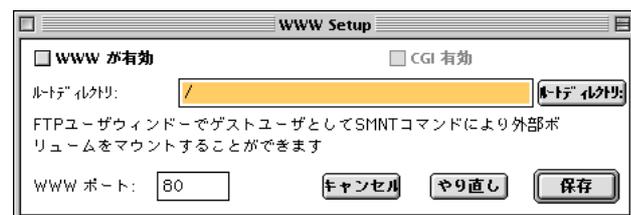


図3-6 WWWの設定

また、ほかのサーバーソフトが80番のポートを使っていたら、「WWW Port」のところを80以外にします。1つのサーバーマシンで違うWWWサーバーを使うことはまれでしょうから、変更することはまずないと思います。



図3-7 WWWのルートディレクトリの設定

設定は、先程Webで公開するフォルダー設定で設定したNetPrezenzフォルダー内「Showcase」を選んでおきます。

CGIを使用可能にするのであれば、CGIのところもチェックを入れます。セキュリティを考えると無効のままがいいですが、MacのCGIはUNIX比べてよく知られてませんので少しは安心です。

3.4. Gopher設定

Gopherは使う予定はありませんし、よく分らないのなら設定しないようにとも書いてあるので、設定しません。



図3-8 Gopherの設定

3.5. セキュリティー設定

家の中でしか使わない場合はセキュリティーの設定は適当で良いかと思います。

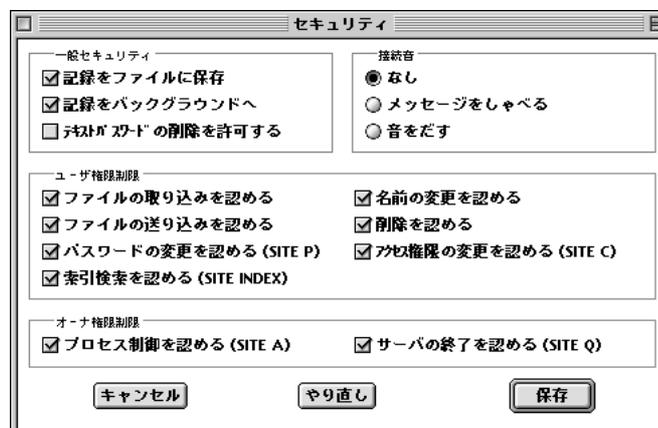


図3-9 セキュリティーの設定

これがお勧めのセキュリティー設定というのはありませんが私のところでは以下のよう

な設定にしてあります。

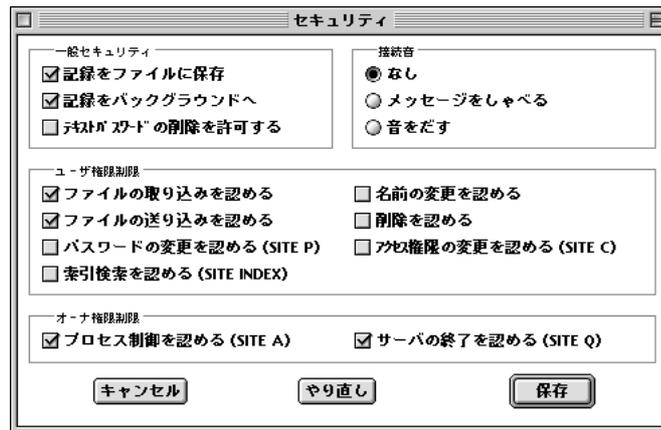


図3-10 セキュリティーの設定例

3.6. Summary

日本語版では「概要」になっています。NetPrezenzとネットワークの稼働状態が分りますので、WWWやFTPが思うように動かないときは何が動いていないのか確認するのに便利です。



図3-11 概要

図3-11の状態は、なにも設定していない状態です。「アクセス」のところ、「ゲストはログインできます。(書き込み禁止)」と「WWWユーザ接続可能」になれば大丈夫です。

4. 稼働テスト

一番簡単な稼働テストは、NetPrezenzのフォルダーの中に有るShowcaseをWWWで参照するフォルダーにすることです。NetPrezenzを起動して、ネットワークにつながっている別のマシン(そのマシンからでもいいですが)のブラウザを起動して、NetPrezenzを起動しているマシンのIPアドレス⁴を指定してください。たとえば、「http://192.168.0.3/」とアドレスを指定します。

⁴ DNSが稼働していればマシン名称でも大丈夫です。

ShowCase



図4-1 Showcaseの表示

ここが表示できれば、設定はうまく行えています。「Showcase」の中には多くの情報 (CGIについても) がありますのでそれを読んでいろいろトライしてみてください。

5. 終わりに

私のところでは以上のような設定で使っていて、ローカルWWWサーバーとして利用しています。Quadra800+System7.5.5で、1年以上電源入れっぱなしで使っていますがNetPrezenzが落ちたことはありません。他のソフトがフリーズしてしまい、何回か再起動が必要になってはいますが、NetPrezenz自体は頑丈そうです。

常時接続が流行ってきていて、自分のWebサーバーってのはおつなものです。MacHTTP(www.machttp.org)もVer2.3からFreeとして開発が始まっています(残念ながら、PPCコードですが)。自分のMacでWebサーバーを立ち上げて自分だけの覚え書きをWWWに上げておくのいいかもしれません。